

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [30337] オートタキシン (ATX)

受託開始日

- 平成30年7月2日(月)



オートタキシン (ATX)

オートタキシン (autotaxin ; ATX) は脂質メディエーターのひとつであるリゾホスファチジン酸の合成酵素です。血清ATXは主に脂肪組織由来と考えられており、他に胎盤や一部の腫瘍組織でも産生亢進が認められます。ATXは肝の類洞内皮細胞に取り込まれて代謝されるため、慢性肝疾患に伴う線維化の進行により内皮細胞に変化を生じるとATXの取り込みが減少する結果としてその血中濃度が上昇することから、血清ATXは肝線維化のよいマーカーとなります。

近年、ウイルス肝炎をはじめとする慢性肝疾患の治療法が進歩し、線維化の進展抑止や病態改善も可能となったことにより、従前にも増して肝線維化の程度の把握ならびに治療後のモニタリングが重要となってきました。線維化の判定において最も確実なのは肝生検ですが、患者の身体的負担も大きいことから、相対的に侵襲性の低い肝線維化マーカー検査への期待はより高まっているといえるでしょう。血清ATXは軽度の線維化ステージ (F2) でも上昇し、既存の他の線維化マーカーに比べて早期の段階で線維化の進展を検出できると期待されます。

なお、副腎皮質ステロイド投与患者では脂肪組織による産生低下によりATX低値となる一方、妊婦では胎盤由来ATXにより血清ATX高値を示すため、注意が必要です。

検査要項

項目コード	30337										
検査項目名	オートタキシン (ATX)										
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵 [容器番号：01番]										
検査方法	FEIA法										
基準値*1 (カットオフ値)	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>①線維化進展例*2 (mg/L)</th><th>②肝硬変 (mg/L)</th></tr></thead><tbody><tr><td>M</td><td>0.910</td><td>1.690</td></tr><tr><td>F</td><td>1.270</td><td>2.120</td></tr></tbody></table> <p>①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。 ②より高い検体は、肝硬変と判定します。</p>			①線維化進展例*2 (mg/L)	②肝硬変 (mg/L)	M	0.910	1.690	F	1.270	2.120
	①線維化進展例*2 (mg/L)	②肝硬変 (mg/L)									
M	0.910	1.690									
F	1.270	2.120									
所要日数	2～4日										
検査実施料	194点*3 ([D007] 血液化学検査「48」オートタキシン)										
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料区分)										
備考	<p>*1：判定上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none">・妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。・悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。・副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。・肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。 <p>*2：C型肝炎治療ガイドライン(第5.4版)の「肝線維化F2以上」に相当します。</p> <p>*3：算定留意事項</p> <ul style="list-style-type: none">ア オートタキシンは、区分番号「D007」血液化学検査の「48」Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体の所定点数に準じて算定可能です。イ 本検査は、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定できます。ウ 本検査と区分番号「D007」血液化学検査「37」のプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、「38」のⅣ型コラーゲン、「40」のⅣ型コラーゲン・7S、「44」のヒアルロン酸又は「48」のMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。										

参考文献

- 池田均：医学のあゆみ 263 (13)：1050-1054, 2017.
島本怜史, 他：東ソー研究・技術報告 61：99-104, 2017.